



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 小島 信也
東京都文京区林友ビル6階
〒112-0004 電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

令和2年度連盟第3回理事会を開催(東京・江東区で)

全市連は11月9日(月)、令和2年度第3回理事会を東京都江東区東陽町・ホテル イースト21東京で開催した。コロナ禍の中での開催で、広い会場での開催及びWebも併用した理事会となった。出席は理事36名(うちWeb参加9名)・監事計2(うちWeb参加1名)の計38名。また、林野庁木材産業課の眞城英一課長及び業務課の田口護企画官に御出席頂いた。

会長挨拶

西垣会長は開会挨拶で、「コロナウイルス感染症がまだ、完全には終息しない中での、理事会となり、一部理事・監事は、Web参加していただいている。

午前中、林野庁を表敬訪問し、本郷長官及び浅川次長にお目にかかり、懇談してきたところ。本理事会には、林野庁から眞城木材産業課長様及び田口業務課企画官様に御出席をいただいております。後ほど、所管事項のご指導をお願い致します。今年度は2月末からコロナの影響を受け、3月16日の理事会を中止とし、5月22日開催予定の熊本総会も急遽、東京開催に振り替え、市川副会長をはじめとする在

京理事監事の方々のお力添えですべての議案が滞りなく可決承認された。関東支部の鈴木賢二支部長、東海支部の鈴木善一朗支部長、四国支部の尾崎支部長、奥羽支部の安部支部長はじめ新たにご就任いただきました理事の方々には、業界発展のため御尽力を願いたい。冬に向かい、感染拡大を充分に意識したニューノーマルでの新たな生活環境が続くということだ。

林業、木材産業業界においても、今年度は、最悪の想定よりも多少上方修正の予想のようですが、新築住宅着工戸数がこれからも長く大きな影響を受けることが懸念される。林野庁におかれても、矢張り早くに補正予算を立てていただき感謝しておりますが、現時点においてもこれらの影響すべてを見通すことは出来ず、地域の特性によって、業界ニーズも多岐に亘っており、重ねてきめ細やかな対応をお願い申し上げます。全市連会員も、これまで以上に各市場間の協力と連携及び木材市場業界の結束が必要。行政のご指導を得ながら、各地域の会員が支部長、理事を中心に一丸となって結束し、未加入市場の加入促進も含め、木材流通の要としての役割を果たし、アフターコロナをしっかりと乗り越えて行かねばなりません。

せん。地域の木材業界を安定させてゆく使命を全うしようではありませんか。」等と述べた。

林野庁挨拶・情報提供

・眞城英一 林野庁木材産業課長から、「林政推進に対する御理解と御協力へのお礼。新型コロナウイルスによる林業・木材産業への影響を踏まえ、林野庁では、令和2年度補正予算において、原木価格の下落への対策として、滞留した原木を一時保管するための「輸出原木保管等緊急支援事業」等を措置するとともに、関係者間で需給動向を共有するための「需給情報連絡協議会」を開催。令和3年度予算概算要求について、林野庁全体では、対前年度比、公共120.8%・非公共106.9%。木材産業関連は「林業・木材産業成長産業化促進対策」のうち「木材産業等競争力強化対策」、「木材産業・木造建築活性化対策」(SCM事業を含む)及び「木材需要の創出・輸出力強化対策」等を要求。」等についての挨拶と情報提供を頂いた。

・田口護 林野庁業務課企画官から、「日頃の国有林の事業運営へのお礼。コロナ禍における林業・木材産業分野への影響について、各地域において需要の動向を見定めながら、国有林材供給調整検討委員会からの報告を踏まえ、民有林からの木材供給を補完する形で全ての局で講じている供給調整の状況。森林経営管理制の要となる林業経営者を育成するための樹木採取権制度。」等についての挨拶と情報提供を頂いた。

質疑・意見交換

林野庁の説明等に関連し、質疑意見交換を行った。主な項目としては、「①製材品流通への商社進出②サプライチェーン③SDGs④炭素排出ゼロと木造住宅優遇⑤木材アドバイザー⑥人材確保⑦信用保証⑧需給及び市況⑨補助事業枠⑩生産・流通の効率化等

情勢報告・業務運営

資料に基づき、事務局より次の事項について報告し、ご了解を頂いた。

- ①JAS展実施状況②効率的サプライチェーンの構築事業③林業・木材産業関係税制及び金融についての要望等(軽油引取税免税措置継続等)④「原木部会」及び「製品部会」報告⑤政策提言(林野庁表敬)⑥木材アドバイザー養成講習会⑦コロナ関連施策等⑧労働安全(木材市場における労働災害の現状と対策)⑨未投資戦略等の概要⑩令和元年木材需給



「理事会の様子1」

【その他】

①次期総会の日程等については、熊本市において令和3年5月14日(金)の開

表①令和3年度予算概算要求②木造化推進法関連(都市木造化議員連盟の動き)



「理事会の様子3」



「理事会の様子2」

催が提案され、承認された。

②次回理事会の日程については、令和3年3月15日(月)の開催が了承された。

令和2年度第2回正副会長・支部長会議を開催

1. 当連盟は9月9日(月)、イースト21 東京(東京都江東区区東陽町)において、令和2年度第2回の正副会長・支部長会議を開催した。出席正副会長支部長は6名。会議では、西垣泰幸会長から挨拶を頂き、その後、最近の情勢報告、各地の需給・市況報告並びに次期総会日程及び次回理事会日程等が議題として、取り上げられた。更に、別途、合法木材事業者等認定審査委員会が開催され継続分の審査が行われた。

2. 西垣会長は、「新型コロナ禍の中、5月の東京総会は、市川副会長はじめ、関東支部の御尽力で開催することがで



「Web参加の様子」

き、新役員が選任され、正副会長・支部長の半数が交代した。今年に入つての、前回、前々回の正副会長・支部長会議が、いずれも書面とならざるを得ず、今年初めての顔を合わせての開催となった。新たな木材需要等に向けたSCMの構築やポストコロナの木材流通等において木材市場が、どのように役割を果たしていくか、多くの課題があるが「原木部会」及び「製品部会」の新しい発想も踏まえ、全市連会員の発展のために、御尽力いただきたい。」等の挨拶をした。

林野庁長官及び次長表敬

令和2年11月9日(月)、正副会長・支部長会議開催前の早朝、西垣泰幸会長を始め副会長・支部長等7名で、林野庁を訪れ、本郷浩二長官及び今夏新任の浅川京子次長、並びに眞城英一木産課長を表敬訪問し、「政策提言」を手交して、



「本郷長官表敬」



「浅川次長表敬」

コロナ禍ではあるが、親しく懇談させて頂いた。政策提言では、コロナ感染症の影響への支援策実施、国産材の安定需給及び適宜・適切な国有木材販売、木材の合理的仕訳による森林資源の有効活用・最大価値化の実現、山元還元増加等、とりわけ軽油引取税免税措置の継続について強く要望した。

全国優良木材展示会

— 東海木材相互市場大口市場

「観音寺」(ヒノキ天然木)に 農林水産大臣賞

当連盟主催の全国優良木材展示会は11月20日(金)、東海木材相互市場・大口市場(丹羽郡大口町)で開催された。来賓は、林野庁木材製品技術室齋藤健一室長、中部森林管理局花村健治次長及び愛知県農林水産部林務課平山 一木課長ほか。

出品材は、国有林材(木曾ヒノキ材、人工林ヒノキ材等)約300㎡及び民有林材合せて約2,800㎡。

開会に当たり、全市連の西垣泰幸会長(西垣林業会長)が、「本展示会は、全国の優良木材のPRと需要拡大のため全市連が長年にわたり、関係各位の御協力のもとに開催。今後、全国各地の木材関係者が一体となり、国産材の安定需給体制づくりを進め、林業、木材産業の健全な発展に取り組むことが重要。全市連としても、国産材の利用拡大及び利益の山元への還元等の課題に積極的な取り組みを進める。」旨の挨拶を行った。林野庁齋藤木材製品技術室長等から入賞者に農林水産大臣賞、林野庁長官賞等を贈呈した。また、天然木曾ヒノキの競りに先立ち、花村中部森林管理次長から挨拶を頂いた後、競りが行われた。

民有林材の審査結果は、次のとおり(敬称略)。

▽農林水産大臣賞 観音寺(ヒノキ天然木300年生64cm 8m)▽林野庁長官賞 (株)滋賀ナイス、大富部喜彦▽愛知県知事賞 (株)柚匠、藤澤隆久▽中部森林管理局長賞 山根初造、(株)キョウウ▽全木連会長賞 鈴木耕治、(株)丸光イトウ▽全市連会長賞 伸和産業(株)、中岡林業▽全買連会長賞 泉合資、金指勝悟。

式典終了後、雨天の中ではあるが、全国から約150名の買方が集まり、活発な競りが行われた。関係者が見守る中、熱気のこもったセリが行われ、農林水産大臣賞受賞材には、115万円/㎡、国有林材は、最高値のヒノキ天然木に120万円/㎡の値がついた。



「表彰の様子」



「農林大臣賞受賞材」

令和元年(2019年) 木需給表公表

林野庁は、9月30日、令和元年(2019年)の木材需給に関するデータをまとめた「令和元年(2019年)の木材需給表」を取りまとめた。

め、公表した。概要以下のとおり。

1. 木材需要の概要

(1) 総需要 令和元年(2019年)における木材の総需要量は、81,905千㎡で前年に比べ573千㎡(0.7%)減少。用材は、71,269千㎡で前年に比べ1,915千㎡(2.6%)減少。しいたけ原木も251千㎡で前年に比べ23千㎡(8.4%)減少。燃料材は、10,386千㎡で前年に比べ1,366千㎡(15.1%)増加。

(2) 国内消費 国内消費量は、79,190千㎡で前年に比べ453千㎡(0.6%)減少。この中で、前年比べて増加したのは、その他用材の2千㎡(0.1%)、燃料材の1,366千㎡(15.2%)で、その他は減少。

(3) 輸出 輸出量は、2,715千㎡で前年に比べ121千㎡(4.3%)減少。この中で、前年比べて増加したのは、製材品の2千㎡(0.9%)、その他(用材)の3千㎡(13.6%)。

2. 木材供給の概要

(1) 総供給 令和元年(2019年)における木材の総供給量は、81,905千㎡で前年に比べ573千㎡(0.7%)減少。用材は、71,269千㎡となり、前年に比べ1,915千㎡(2.6%)減少。しいたけ原木も251千㎡で前年に比べ23千㎡(8.4%)減少。燃料材は10,386千㎡となり前年に比べ1,366千㎡(15.1%)増加。

(2) 国内生産 国内生産量は、30,988千㎡で前年に比べ787千㎡

(2.6%)増加。この中で、前年比べて増加したのは、丸太の236千㎡(1.0%)、燃料材の684千㎡(10.9%)で、その他は減少。

(3) 輸入 輸入量は、50,917千㎡で前年に比べ1,360千㎡(2.6%)減少。この中で、前年比べて増加量が最も大きかったものは、燃料材の682千㎡(24.6%)。

3. 木材自給率 我が国の森林資源が主伐期を迎える中で、林業の成長産業化のためには、製材等の用材の需要拡大が重要。令和元年(2019年)の用材の自給率は、33.4%で前年に比べて1.0ポイント上昇。これは、平成23年から9年連続の上昇。また、用材にしいたけ原木及び燃料材を加えた総量の自給率は、37.8%で前年に比べて1.2ポイント上昇。用材同様、平成23年から9年連続の上昇。

令和2年度木材利用優良施設コンクール受賞施設公表

1 令和2年10月16日、木材利用推進中央協議会(会長・鈴木和雄全国木材組合連合会会長)は、最も優良な施設に対する「内閣総理大臣賞」をはじめ、「農林水産大臣賞」、「国土交通大臣賞」及び「環境大臣賞」、更に林野庁長官賞、協議会会長賞、審査委員会特別賞を加えた13受賞施設を公表した。

2 受賞施設

【内閣総理大臣賞】白鷹町まちづくり復興施設(山形県西置賜郡白鷹町) 町内で生産・加工したスギ材をふんだ

んに用いた複合施設（役場庁舎、図書館、中央公民館）。冬季の降雪による根曲がりのため採材寸法が限られる町産材を最大限有効活用することができる構造を採用。1・5mの積雪荷重や大空間の実現などの各種条件を、折線状のアーチ構造や格子耐力壁などを組み合わせることでより達成。川上から川下までの地域関係者が連携することにより、木材利用量1,712㎡のうち約75%に町産スギ材を活用。

【農林水産大臣賞】mother's + (マザーズプラス) (北海道白老郡白老町)

鶏の飼育・採卵から食品加工、食事サービス及び自然体験までを一貫して行う6次産業化施設。北海道産のカラマツの集成材を柱や梁に、トドマツのCLTを床構造部に採用。シンプルでありながら、洗練された13mスパンの空間を実現。

【国土交通大臣賞】魚津市立星の杜小学校 (富山県魚津市)

耐火火面と多雪地ならではの積雪荷重に配慮し、全国初（平成27年法改正後の一時間準耐火構造）の木造3階建て小学校を実現。地域で調達可能な樹種・性能区分・寸法に注意を払うことにより、構造材、仕上げ材から下地材まですべて魚津市産材に。木がもつ香り、あたたかみ、感触や調湿性といった優れた性能を活かした校舎は、木育の教材として相乗的な効果を生み出している。

【環境大臣賞】有明体操競技場 (東京都江東区)

カラマツの屋根構造、スギの外装や座席などで2,300㎡の木材を利用した大規模木造施設。節や木材のばらつきを

表情として見える外装など、日本の木の文化や高い木造技術を世界にアピールすることができるとなる建築物。日本初となる構造により競技エリアをダイナミックに覆う木質大空間を実現。外装には直径14cmの丸太を基本とした製材を採用することで材料の確保と節の美しさの表現を実現。

【林野庁長官賞】

○morinos (森林総合教育センター) (岐阜県美濃市) ○日光市本庁舎 (栃木県日光市) ○WITH HARAJUKU (東京都



「総理大臣賞」



「農林水産大臣賞」

渋谷区)

【木材利用推進中央協議会会長賞】

○FLATS WOODS 木場 (東京都江東区) ○長門市本庁舎 (山口県長門市) ○天草市複合施設「こいらす」(熊本県天草市) ○THE THOUSAND KYOTO KOMO-REBIDO (京都府京都市)

【審査委員会特別賞】

○Hokkaido CLT Pavilion (北海道旭川市) ○高知学園大学 (高知県高知市) なお、表彰式は10月30日(金)に、東京木材会館(江東区新木場)で行われた。



「国土交通大臣賞」



「環境大臣賞」

雑 記 帳

その国は世界有数の経済大国で、首都には、高層ビルが立ち並び、高速鉄道、高速道路網が張り巡らされ、高い科学技術を持ち、深海調査を行い、国産ロケットで人工衛星・惑星探査機等も数多く打ち上げている。多くのノーベル賞受賞者も輩出し、世界屈指の長寿国でもある。国民の約7割は無信仰を自称するが、12月には、外来の宗教の救世主の生誕を多くの人が盛大に祝う。一方、人が亡くなると多くが仏式の葬儀で送られ、新年を迎えると皆、神社にお参りする。山や川や海、ありとあらゆる自然物に神が宿り八百万の神が居られるというアニミズム的・祖霊崇拝的な民族宗教である神道の信者であるとも言われる。林業関係者は今も山の神を祀り、山の恵みに感謝し、山の作業の安全を願う。出雲大社、伊勢神宮、大三輪神社から始まり、氷川神社、八幡神社、天神様、稲荷社等々、大神宮、社殿、社など日本国内で約85,000の神社が登録されているという。屋敷神の祠や山野の山の神などを入れれば、更に膨大な数となる。地球から何億キロも離れた小惑星に無人探査機を送り込む先端技術も持つが、その管制センターにはプロジェクト成功を願う神社の御札が張られ、縁起物のだるまが祭られているという。もちろん、科学的にやるべき事を全てやった後は、神様にもおすがりするということである。このアンバランスを微笑みで受け入れられるというのは、「信念がない」と見るか「大いなる寛容」と見るか意見が分かれるかも知れないが、さて!?